

平成26年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 上河内 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成26年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成26年4月22日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の参加状況

第2学年	国語	87人	社会	87人	数学	87人
	理科	87人	英語	87人		

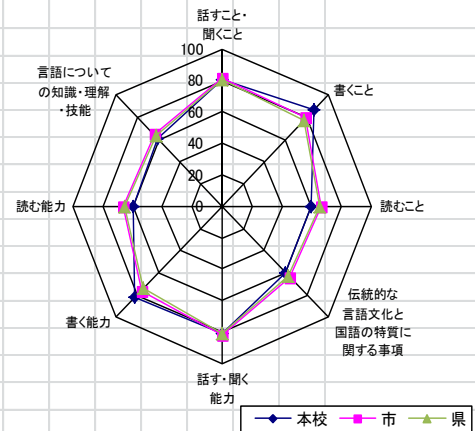
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内中学校第2学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	80.5	81.6	80.5
	書くこと	86.7	79.4	77.2
	読むこと	59.9	65.9	65.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	60.4	64.2	62.8
観点	話す・聞く能力	80.5	81.6	80.5
	書く能力	82.5	76.4	74.3
	読む能力	59.9	65.9	65.0
	言語についての知識・理解・技能	61.2	64.4	63.0



★指導の工夫と改善

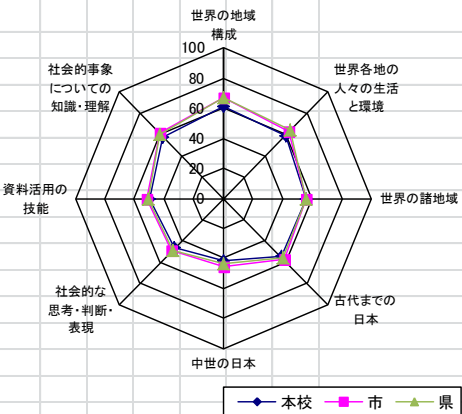
○ 良好なもの ● 課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○ 領域の平均正答率は80.5%で、県平均と同じである。 ○ 特に話の内容を正確に聞き取ることができる設問の正答率は96.6%で、県平均より0.3%高い。他にも司会者の討論の進め方の工夫について理解している設問の正答率は81.6%で、県平均より4.4ポイント高い。話合いの内容の聞き取りに一定の成果が見られる。	・質問を正確に聞き取り、それに対する適切な発言を考える能力を養うには、日ごろからの聞き方が大切になる。また一問一答式の問いを行うことによって、適切な発問の答えを考え、身に付けさせていきたい。
書くこと	○ 領域の平均正答率は86.7%で、県平均より9.5ポイント高い。 ○ 特に指定された文字数の範囲で意見文を書く設問の正答率は86.2%で、県平均より12ポイント高い。また文章の内容に沿ったまとめを書くことができる設問の正答率は10.3ポイント高い。制限字数で意見文を書いたり、文章の内容に沿った文を書くことに一定の成果が見られる。	・指定された文字数で段落構成を行い、根拠を明確にして書くことを今後も意識的にを行い、続けていきたい。
読むこと	● 領域の平均正答率は59.9%で、県平均より5.1ポイント低い。 ● 文章の内容を整理し、要旨をまとめることができる設問の正答率は43.7%で、県平均より10.2ポイント低い。また登場人物の行動、情景描写に注意して読み、心情をとらえる設問の正答率は74.7%で、県平均より7.7ポイント低い。文章の内容を読み取ることに課題がある。	・目的や意図に応じて情報を収集活用する能力を養うためには、テーマに関連した複数の文章や資料を比較して共通点や相違点を読み取らせたり、書き手の論理の展開の仕方を事実と意見を分けて理解させたりする指導を重点的に行うことが必要である。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	● 領域の平均正答率は60.4%で、県平均より2.4ポイント低い。 ○ 特に漢字を書く4問のうち、全学年までに学習した漢字「冒険」を書く正答率は50.6%で、県平均より15.1%高い。 ● 品詞について理解している正答率は32.2%で県平均より14.3%低い。品詞への理解に課題が見られる。	・品詞についての理解や部首についての理解を深めるためには基礎基本を見直し、問題を繰り返し解くことが大切である。 また、漢字の練習を含め家庭学習として繰り返し学習する課題を与え、演習問題により言語知識の定着を図ることが、豊かな語彙を身に付ける上で有効である。

宇都宮市立上河内中学校第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	60.9	67.1	67.1
	世界各地の人々の生活と環境	59.3	62.6	63.9
	世界の諸地域	55.8	55.9	55.3
	古代までの日本	54.8	57.8	56.2
	中世の日本	41.6	45.1	43.5
観点	社会的な思考・判断・表現	46.7	49.7	48.9
	資料活用 の 技能	50.2	51.8	51.0
	社会的 事象 についての 知識・理解	57.9	61.1	60.6



★指導の工夫と改善

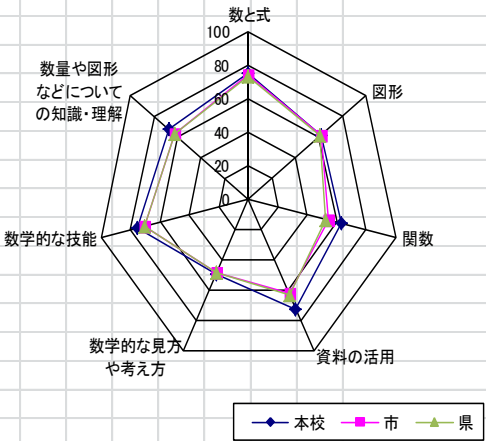
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	● 正答率は市・県より約6ポイント低い数値である。国の名称や位置についての理解が十分でない。地図の読み取り等も十分でない。 ○ 海洋や地域区分はほとんどが理解している	地理的分野では、教科書の重要語句やワークブックを利用し、知識の定着を図り、基礎的・基本的な事項の理解度を向上させたい。グラフの読み取りや時差の計算などの技能が苦手な生徒が多く見られるため様々な場面で取り入れ理解を深める必要がある。デジタル教科書を活用し、グラフ等の変化や推移を視覚的に訴え、資料を読み取る力を向上させたい。 思考力・表現力においてその事象がなぜそうなるのか等の理由を考えたり、自分の言葉で表現する活用場面を多く取り入れることを通して向上を図っていききたい。
世界各地の人々の生活と環境	○ 世界各地の人々の住居の理解については市平均より11ポイント上回っている。 ● 正答率は3ポイント低い数値であるが、雨温図を読み取り説明する力は低い。	
世界の諸地域	○ 季節風がアジアの気候にもたらす影響についての理解は市平均を4ポイント、県平均より7ポイント上回っている。全体的にし・県平均であった。	
古代までの日本	● 年表のあわらし方についての理解度が市平均より10ポイント低い。 ○ 世界の古代文明や縄文、弥生時代の特徴の理解度は市・県平均と同じようであった。平城京の位置や院政についての理解は市・県のポイントをかなり上回っていた。	
中世の日本	○ 承久の乱や鎌倉幕府のしくみについての問いに関しては、市より3ポイント、県より5ポイント上回っている。 ● 東アジアとの関わりについての理解が低いため、市・県のポイントより低い結果となった。	

宇都宮市立上河内中学校第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	75.3	74.1	73.8
	図形	61.7	62.0	60.9
	関数	62.9	54.1	52.9
	資料の活用	72.9	62.5	63.4
観点	数学的な見方・考え方	49.5	48.2	48.3
	数学的な技能	75.7	71.0	70.4
	数量や図形などについての知識・理解	67.6	62.9	62.3



★指導の工夫と改善

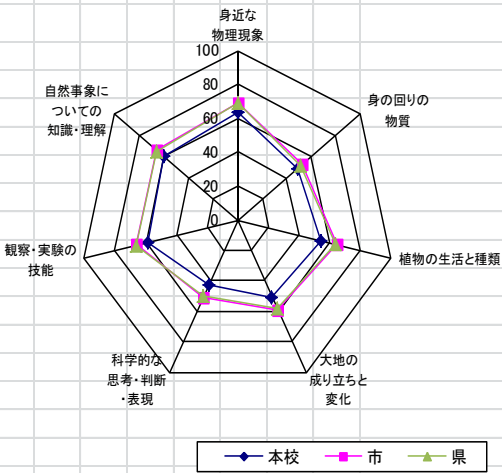
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○正負の数や式の計算、方程式の計算等はほぼ県と同じような状況である。分配法則を用いた式の計算は県より9ポイント上回っており定着しているといえる。数量の関係を等式に表すことも県を上回っている。	・四則の混じった計算のやり方、やや複雑な方程式の計算等、引き続き計算の反復練習やに力を入れていきたい。 ・等式や不等式で数量の関係を表すことを苦手としている生徒が多いので、復習の機会をつくり、理解に努めたい。
図形	○ねじれの位置にある辺を答える問題は10ポイント、「球の体積を求める公式」などは10ポイント県を上回っている。 ●図形の移動の問題は4ポイント、円柱の表面積の問題は8ポイント、四角錐の体積についての問題は4ポイント県より下回っている。	・用語の意味、体積や表面積の求め方を再確認していきたい。朝の学習の時間をつかって、復習の機会を持つようにする。
関数	○座標を求めることは6ポイント、比例の式をつくることは17ポイント、反比例の関係をとらえることは28ポイント、比例のグラフをかくことは27ポイント県を上回っている。 ●比例の特徴を答える問題は県より6ポイント低い。 ●比例の活用や、 x 、 y の関係を式に表す問題は正答率が低い。	・比例・反比例の基本的な内容は理解できている生徒が多いが、2年生の学習内容である1次関数への理解が満足できない状況である。関数の意味や表、式、グラフの関係を理解できていない生徒には繰り返し、丁寧に指導し、理解させたい。また関数を活用することは苦手な生徒が多いので、身の回りの事象を関数的に捉え、それを利用するような問題に取り組む機会を多く持たせたい。
資料の活用	○相対度数を求める問題は県より24ポイント、中央値についての理解の問題は17ポイント高い。資料の傾向をとらえ、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題では県をやや上回っている。	・資料の整理の基本的な内容を復習させ、それを活用して判断したり説明したりする問題に取り組む機会を持たせる。

宇都宮市立上河内中学校第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	63.5	69.2	68.6
	身の回りの物質	48.6	52.2	51.1
	植物の生活と種類	54.6	64.8	64.1
	大地の成り立ちと変化	50.4	58.7	57.8
観点	科学的な思考・判断の表現	42.4	51.1	50.1
	観察・実験の技能	58.9	66.0	66.5
	自然現象についての知識・理解	60.6	66.5	65.4



★指導の工夫と改善

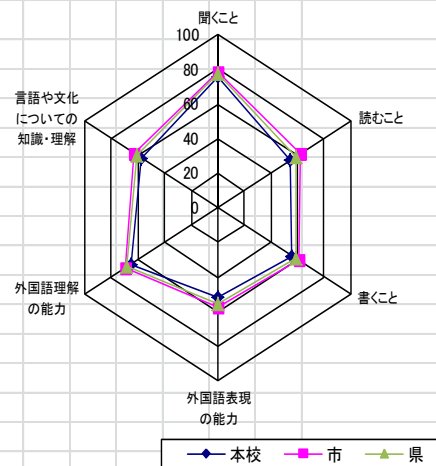
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	○全体を比較すると低い、水溶液中の溶質を表す粒子のモデルなど、イメージする力はその中では高い。 ●音の高低や振動数の関係、日常の圧力の変化と面積の関連つけて考える力が低い。	・基本的な重要語句を繰り返し覚えること。 ・物事について考える力が低いので予想を立てさせたり、なぜその答えに行きつくのか、疑問をたくさんあたえ考えさせる必要がある。
身の回りの物質	●気体の集め方、溶解度曲線のグラフの見方	
植物の生活と種類	●基本的な植物のつくり(葉・茎・根)の関係性が理解できず、県や市と比較すると大きく下回っている。また、光合成、呼吸の関連を考える力が低い。	
大地の成り立ちと変化	●地震計から、震源地や初期微動継続時間を推測する力が低い。火山の種類やそこから、火成岩のでき方が理解できていない。また、化石についても示相化石、示準化石の区別ができていない。	

宇都宮市立上河内中学校第2学年【英語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	76.1	78.7	77.8
	読むこと	55.0	61.7	59.2
	書くこと	55.4	61.0	58.7
観点	外国語表現の能力	51.6	57.9	55.8
	外国語理解の能力	65.4	70.1	68.4
	言語や文化についての知識・理解	57.8	63.0	60.4



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○他の領域に比べ市の正答率との差が小さい。まほとりの英文を聞いて質問に答える問題のポイントは高くなっている。 ●英語特有の表現に対する適切な応答や疑問詞を用いた疑問文に対する応答の仕方を身につけていない生徒が多い。	・授業の中で口頭によるQ&Aを増やし、英語の質問に対する答え方の基本的なルールを定着させるとともに、聞くときのメモの取り方など基本的なリスニング技術を定着させるための指導を工夫していきたい。また本文や、文法事項の導入時に視聴覚教材を活用していきたい。
読むこと	●まほとりのある英文を読んで内容を読みとることが苦手な生徒が多く見られる。これは一文一文解釈することに集中しがち、概要や要点をとらえるなどの読みとりの力が身につけていないためと思われる。市や県の平均正答率との差が一番大きいのがこの領域であった。 ○文章が短く、内容がつかみやすい手紙文の読み取りの正答率は比較的高くなっている。	・読みとりの力をつけさせるためには、多くの語彙や既習文法の運用力を高めなければならない。そのため単語や文型テストを増やしていく必要がある。普段から予習等で教科書本文をノートに書き写し、意味を考える習慣をつけさせたい。長い文章やまとまった内容の英文を読む機会を増やし、一文一文の解釈から全体を読みとるだけでなく、細かくそれぞれの構文にとらわれずに文全体の内容や概要を読みとる方法を指導していきたい。
書くこと	○並び替えの問題では比較的高い数字を残しており、少しずつSVOC等の語順については定着しつつある。 ●授業で基本文や単語は授業で何度も繰り返し発音させているが、書くために必要な単語や表現が生徒に定着していないため、場面や条件に応じた作文やテーマに基づく作文では正答率がとても低い。	・基本となる語彙や基本文を定着させる活動を徹底することが必要である。そのため書く活動を授業だけでなく、課題として家庭でも行うよう継続的に指導していきたい。書く力をつけさせるためにSVOC(主語・動詞・目的語・補語)等の語順に常に注意を払わせながら問題に取り組ませたい。さらには教科書の基本文を書かせるだけでなく、それをモデルに自分の情報を置き換える練習をさせたい。

宇都宮市立上河内中学校第2学年生徒質問紙調査

★傾向

○良好なもの ●課題が見られるもの

宇都宮市の結果公表をもとに、「学校教育とスタンダード」と関連の深い質問等を中心に、調査結果（肯定的回答割合）と傾向および今後の重点を記載した。

主な質問	本校	宇都宮市	県
1 家で、学校の授業の復習をしている。	72.4	64.0	67.2
2 家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。	57.5	57.6	54.5
3 学校の授業時間以外の普段（月～金曜日）、1日あたりの勉強時間 ※2時間以上	29.9	29.2	32.8
4 グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。	70.1	72.1	70.4
5 授業を集中して受けている。	89.7	88.8	88.3
6 将来の夢や目標がある。	73.6	76.6	77.6
7 学校のきまりやマナーを守っている。	88.5	91.7	91.2
8 近所の人にあつたときは、あいさつをしている。	94.3	89.5	90.0
9 誰に対しても、思いやりの心をもって接している。	87.4	87.4	87.1
10 毎日、朝食を食べている。	95.4	94.8	93.6
11 早寝、早起きを心掛けている。	56.3	63.7	61.0
12 先生は、学習のことについてほめてくれる。	72.4	70.2	67.6
13 家の人と学習について話をしている。	77.0	78.8	71.8

《傾向及び今後の重点》

○No.1「家で、学校の授業の復習をしている。」と回答した生徒の割合は、県や市の平均と比べて高い。

●一方、家庭学習の時間が2時間未満の生徒の割合が、県平均に比べて2.9ポイント多い状況にある。

○No.2「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」と回答した生徒の割合は県平均と比べて高いことから、今後も、各教科間で連携を図って宿題の量が適正になるよう配慮したり、家庭学習の計画を立てる活動を取り入れたりするなど、生徒が自主的に家庭学習に取り組むことができる学習環境づくりに努める必要がある。

●No.4「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」と回答した生徒の割合は、県や市の平均と比べて低い。「自分の考えを発表する機会が与えられている。」「クラスの友だちとの間で話し合う活動をよく行っている。」「クラスは発言しやすい。」「友だちの前で自分の意見を発表することは得意だ。」などの肯定的回答は、市や県と比較して低い。2年前から「表現力を高め、自分の考えを伝え合う授業」をテーマとしての授業研究会を実施してきた。効果が上がるように、検討を重ねながら継続していきたい。

●No.6「将来の夢や目標がある。」と回答した生徒は、県や市の平均と比べて低い。No.13「家の人と学習について話をしている。」の回答は、市の平均よりもやや低い。学習と将来への夢や目標を絡めて会話の機会を取り、学習意欲の向上に繋げたい。

○No.10「毎日、朝食を食べている。」と回答した生徒の割合は、県や市の平均と比べて高く、食の習慣が定着してきている。

●No.11「早寝、早起きを心掛けている。」と回答した生徒の割合は、市の平均と比べて7.4ポイント低い。家庭での時間の使い方や家庭学習などに関連づけて、保護者の協力を仰いでいきたい。

○No.12, 13, 8など先生や家の人、近所の人についての質問の肯定的回答割合は、県平均と比べて4.3ポイント以上高い。今後とも、学校と家庭、地域が連携して生徒を見守り、指導していけるようにしたい。